

ヒマラヤスギ

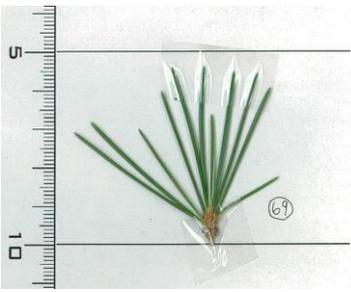
【区画⑫(69)】

学名	<i>Cedrus deodara</i> (Roxb.) G. Don	分類	マツ科ヒマラヤスギ属
分布	公園樹、庭木、生垣、街路樹	樹高	20m以上になる常緑高木

〈特徴等〉

名前の由来	・ ヒマラヤ産のスギという意味。		
葉の特徴	① 常緑・落葉	② 広葉・針葉	
	③ 対生・互生	④ 単葉・複葉	⑤ 鋸歯縁・全縁
開花等	・ 秋に淡黄褐色の雄花をつけ、3cm程度の円柱状で直立している。		
結実等	・ 実は10cm程度で大形。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庭等に多数植えられ、非常に身近な樹木である(ヒマラヤ～アフガニスタン原産)。 ・ 銀色を帯びた青白い葉が、短い枝に20～60本ほど束になってつく。 		

〈写真〉

		
樹木 (4/3)	樹皮 (4/3)	葉の付き方 (4/3)
		
葉 (6/12)	花 (/)	果実(実) (/)

〈参考文献〉 牧野富太郎 (2017) 『新分類 牧野日本植物図鑑』北隆館, p. 136.

林 将之 (2018) 『葉で見わかる樹木 増補改訂版』小学館, p. 278.